

平成 28 年 度 千早赤阪村立学校園 評 価 報 告 書

学校園名 （千早赤阪村立中学校）

校園長名 （ 西岡 智 ）

1. 教育目標

【学校教育目標】

- 確かな学力をつける
- 豊かな心を養う
- 健やかな体を育てる

2. 経営方針

- 教職員個々の学校組織への参画意識の醸成
～効率的かつ効果的な職務遂行と職務への責任の自覚を促す
- 学校は教職員組織で動くことの意識を徹底させる
「報告」「連絡」「相談」の徹底による意思疎通の徹底
企画委員会、職員会議の充実を図り、意思の疎通の徹底を図る
- 教師一人ひとりの授業力の向上と人権意識の向上
- 経験の浅い教職員の自立へのサポートと育成
- 「教師」である前に「社会人」としての自覚と行動
- 子どもの進路保障と公立入試制度に対応する絶対評価の確立と工夫・改善
- 個々の子どもの実態に応じた支援教育の実践

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上をめざした「授業力の向上」の徹底 ～授業改善の継続的な取り組みと組織的な授業研究 ○スクールエンパワーメント（SE）事業の活用と研究の推進 ○生徒一人ひとりの進路保障と絶対評価の検証・工夫・改善 ～チャレンジテストへの対応と進路情報の的確な収集と活用
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○研修部主導による研究授業及び研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の「めあて」と「振り返り」を重視した授業の実施 ・研究授業時の観察項目を明確にしてからの授業観察 ・アクティブラーニングを中心とした授業改善への取り組み ○スクールエンパワーメント事業による具体的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習ノートの継続的な実施 ・各教科における宿題の点検とその徹底 ・テスト前学習会・放課後学習会の実施～支援員（学生）の活用 ・学習支援を要する個々の生徒の実態把握と支援 ・朝読書の継続実施と徹底 ○チャレンジテストの具体的な対応と各教科の評価基準設定の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテスト実施直前における各教科での対策・対応 ・観点別評価による評定決定までの作成手順の確定と点検 ・入試情報の的確な活用と進路委員会での慎重な判断と判定
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善の取り組み 10年研、初任研と連携した研究授業の取り組みを実施。授業観察観点と授業者の提示した課題に基づき、研修を実施。授業改善への取り組み課題を明確にすることができた。 ○自学自習態度の育成 自学自習ノートや放課後学習により自ら学習しようとする意欲・態度の育成を図ってきた。塾へ通う生徒が負担感を持っていることが課題。 ○絶対評価と入試制度への適切な対応 評価方法については教科ごとに確立されてきたが、点検と見直しによる継続的な改善が今後必要
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領の内容を踏まえた授業改善への取り組みを実施する。 今年度までのSE事業の取り組みを継承しつつ、新事業AS事業の取り組みを活用し、アクティブラーニングの研究を推進し、更なる授業改善を図る。AS事業研修における先進校の取り組みに学ぶ。 ○自学自習の態度の形成が将来においても学ぶ姿勢に繋がることを考慮に入れ、生涯学習の観点からも生徒の学習への意欲向上に努める。 ○入試合否判定資料となるチャレンジテストへの日頃からの授業における対策と直前対策による効果的な対応を考える。進路委員会における判定の改善を行うべく、継続的的確な資料収集と判定資料の作成

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<p>○子どもの無限の可能性と内なる多様性を信じ、褒めて伸ばす教育実践</p> <p>○自主的な判断・行動ができ、コミュニケーション力を身に付けた子どもの育成</p> <p>○「道徳の時間」の研究と教科化に向けての対応。内容項目の計画的な実施。次年度の南河内大会に向けての準備計画。</p> <p>○個々の子どもの実態に応じた支援教育（発達障がいも含めて）の更なる理解と実践</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○学級担任を中心とした全校体制での「生徒理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員それぞれが生徒一人ひとりの「良さ」をあらゆる学校生活場面で発見する努力をし、綿密な情報交換による生徒理解を実施する。 <p>○生徒の自主的な学校行事運営と意見や考えを積極的に表現する授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や各委員会における生徒の自主的な運営 ・アクティブラーニングの手法を取り入れた主体的かつ対話的な学びを授業に導入する。 <p>○新学習指導要領を踏まえた「道徳の授業」の実施と研修（夏期研修） 人権学習研修会（大人教・南人教・東人研）との連携による発表準備</p> <p>○支援学級の個々の生徒理解と個々の生徒に応じた教育計画と実践</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○生徒指導上の「生徒理解」は生徒指導部会での家庭状況も含めての詳細な情報交換により綿密にできている。意識的に個々の生徒の「良さ」についても情報交換し、積極的かつ肯定的な生徒理解の充実に努める。</p> <p>○今まで取り組んできた意見交換のある授業から発展して、アクティブラーニングの主体的・対話的な授業方法を取り入れた授業を推進する必要。</p> <p>○夏期研修及び2年目研修において、「読み物教材」とは違った課題解決的な道徳の授業研究を実施した。教科化に向けて評価方法について研究する必要あり。</p> <p>○支援学級在籍の個々の生徒の情報交換や指導計画の進捗状況の点検を行い、状況に応じた支援教育に取り組めた。より綿密な当該生徒在籍学年と支援担当の連携が今後も必要。長欠生徒について、関係諸機関との連携の継続が必要。</p>
A	次年度に向けて	<p>○年度当初に、新転任者が増加する状況の中で「仲間づくり」、「生徒理解」における指導方針の共通理解の徹底が必要。</p> <p>○アクティブラーニングの指導実践例の研究を基にした授業改善</p> <p>○道徳の研究授業の計画的な実施と評価方法を先進校例に学ぶ。</p> <p>○長欠状態となっている支援学級在籍生徒の進路について、家庭と綿密な情報交換が必要。また、引き続き関係諸機関と連携を取りながら、家庭訪問による家庭との十分な連携を引き続き行う必要。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

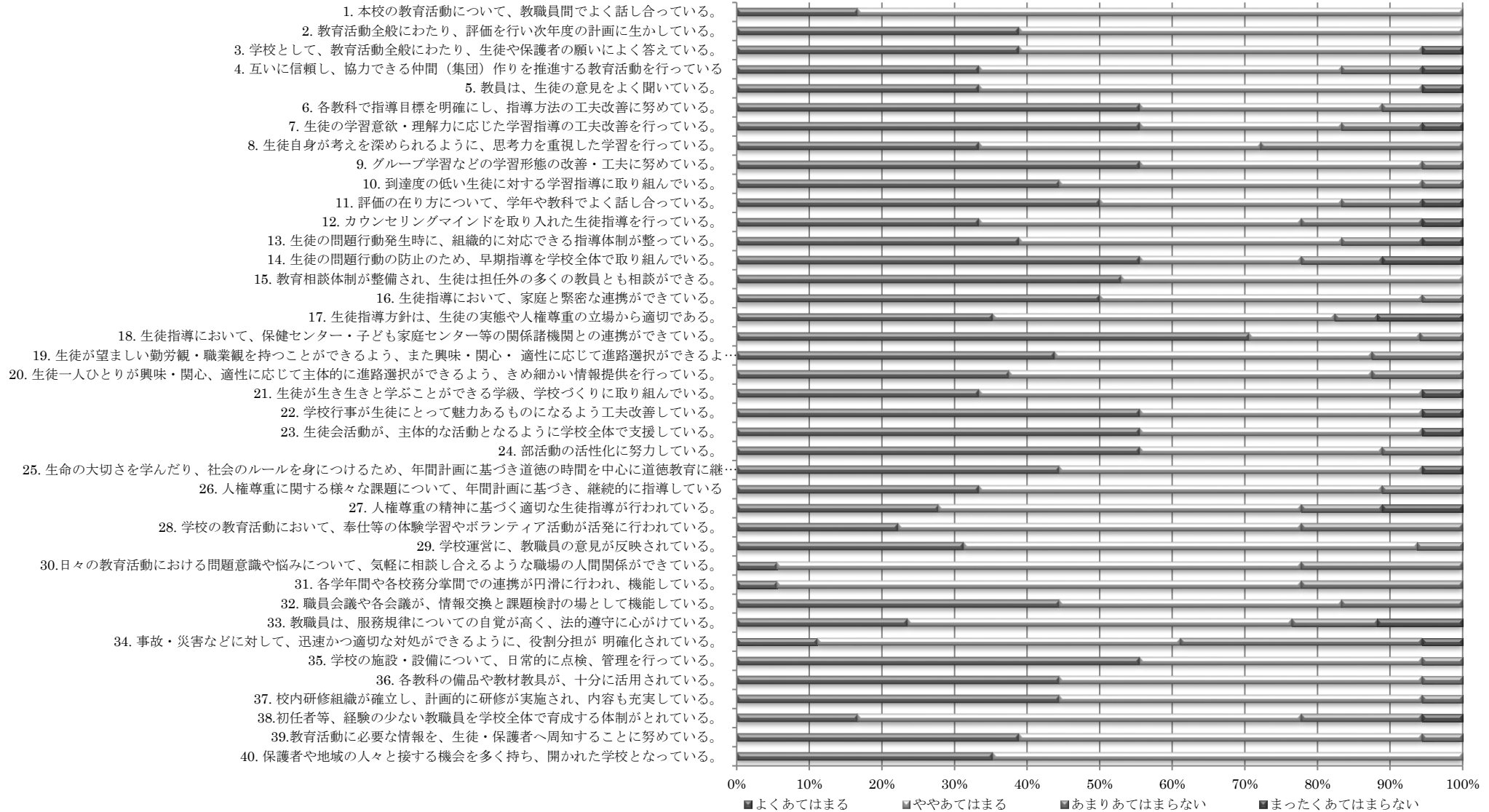
		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ・暴力・不登校ゼロの学校づくり ○高い人権意識に裏付けられた生徒指導・生徒理解 ○危機管理としての防災教育の推進と安全管理の徹底
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期における「教育相談期間」の設定と「いじめアンケート」の実施 学期ごとに「教育相談期間」を設定し、担任が各生徒と面談を行う。 事前に「いじめアンケート」を実施し、即座に対応している。 ○南人教・東人研・「未来塾」への参加 経験の浅い教師を中心として「未来塾」に参加して、仲間づくりを考慮に入れた「生徒理解」を教育実践報告から学ぶ機会とした。 ○避難訓練の計画的な実施と防災アドバイザーによる指導 防災アドバイザーの助言による避難訓練の見直しと緊急時の対応について具体的な指導を頂いた。 ○日常的な施設の点検と即時の修理 ○登下校指導の実施と通学路の安全点検
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめアンケート」により、日頃生徒が困っており相談しにくい内容についても把握することができ、すぐに対応することができた。 ○集団としての仲間づくりを、班活動を活用しながらどの学級においても実践してきたが、なかなか生徒たちの自尊感情の醸成や自信に結び付かないことがあった。「学級づくり」「仲間づくり」の視点で見直す必要 ○緊急（大災害発生）時における中学生としてできることについて、具体的な事例（避難所における役割等）を通して防災アドバイザーから学ぶことができた。 ○健康安全部の役割分担の明確化により定期的に校内施設の安全点検が計画的に実施できた。 ○不審者侵入に対する物理的な（施設面での）不安は依然として残る。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○教師と生徒の信頼関係があつての「いじめアンケート」であり、生徒からの悩み相談につながっている。一層の信頼関係の醸成のためのきめ細やかな生徒指導体制が今後も必要。 ○集団として指導する場面と個々の生徒に指導する場面での教師の対応の仕方について共通理解に基づいた共通方針を随時確認する必要。 ○防災アドバイザーの助言による実践的な訓練の実施 ○定期的な安全点検の継続実施と通学路の安全確認も兼ねた登下校指導の実施 ○防犯設備設置について、引き続き教育委員会、村当局に要望する。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		予備（各校独自の重点項目があれば記載）
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○経験の浅い教師に対する研修及び個々の教育実践力の育成 ○教育公務員としての自覚と職務に対する責任感の醸成 ○創造的な教育活動の展開（挑戦・工夫・改善） ○すべての教育活動での仲間（集団）づくり ○東人研・南人教実践報告に対する取り組みの記録と集約
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○経験の浅い教員に対する管理職による授業観察と事後指導 授業のみならず、日々の教育実践についての相談と対応により、メンタルヘルスの面からもケアできるようにする。 ○職員会議や職員朝礼において、服務について適宜指導 教職員の不祥事例を新聞記事などから示し、注意喚起を行う。 ○生徒の状況に応じた柔軟な発想も含めた教育実践の展開 ○学校行事を中心とした集団作りと日々の学校生活における班活動等を活用した仲間づくりの取り組み ○東人研および南人教実践報告会への参加から他校の実践例に学ぶ 南人教事務局との連携による実践発表会に向けての下地作り
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○研修部の授業研究と連携し、授業観察のポイントを明確にし、授業改善に必要な課題点を管理職、研修部及び授業実施教員と連携を取りながら話し合うことができた。外部の研修参加も増えた。 ○職務専念義務という観点と職務の効率化による長時間労働に対する注意喚起と意識向上を図った。機を見計らった適切な指示を継続したい。 ○生徒一人ひとりの状況に応じた指導方法のあり方について、会議だけでなく、職員室等でお互いに意見交換できる場を大切にしてきたが、教職員全体の共通理解が困難な場合も見られた。 ○3年生が各行事においてリーダーとなり、後輩をリードし、学校行事を成功させる本校の伝統は今年も引き継がれた。生徒が自ら考えて行動する機会をもっと創出すべきだと考える。 ○実践発表に向けての具体的な計画の設定が必要
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な授業観察と事後協議（指導・助言）の具体的な方法の策定 教育センター等外部の研修への参加意欲を向上させる。 ○職務としての更なる意識の向上と長時間勤務を回避するための仕事の効率化を継続的に図る。 ○生徒理解の共通理解の場をあらゆる機会に見つけ確認する。 ○教師の的確、適切な指示と生徒の自主性の醸成のバランスを考える。 ○実践発表に向けての計画に基づいた具体的な行動を図る。東人研運営委員会及び南人教事務局との連携による発表への準備を計画的に進める。

4. 教育自己評価

【教職員による評価】



◇今年度、教育自己診断を実施、結果より（アンケート項目、グラフ参照）

○教職員が肯定的にとらえている（「よくあてはまる」の50%以上）項目を見ていくと、

- ・学習面では、研修部の授業改善の取り組みの推進により、指導目標の明確化と指導方法の工夫改善に取り組んでいるとしている。また、生徒の学習意欲・理解力に応じた学習指導・学習形態の工夫改善（グループ学習やペア学習の取り組み）も充実してきたと感じているようだ。
- ・生徒指導面では、生徒の問題行動の防止のため、早期指導を学校全体で取り組んでいると評価している。また、学期ごとに行う教育相談による体制も出来ており、生徒の悩みに迅速に対応している。昨年度同様、家庭や関係諸機関との連携も日頃よりできていると評価している。家庭や関係諸機関の理解と協力が大きいと感じている。
- ・学校行事、部活動、生徒会活動など、生徒の主体的な活動となるよう工夫し改善し、活性化していると評価している。
- ・今年度より定期的に学校施設点検を全教職員で実施しているので、日常の点検・管理はできていると評価している。

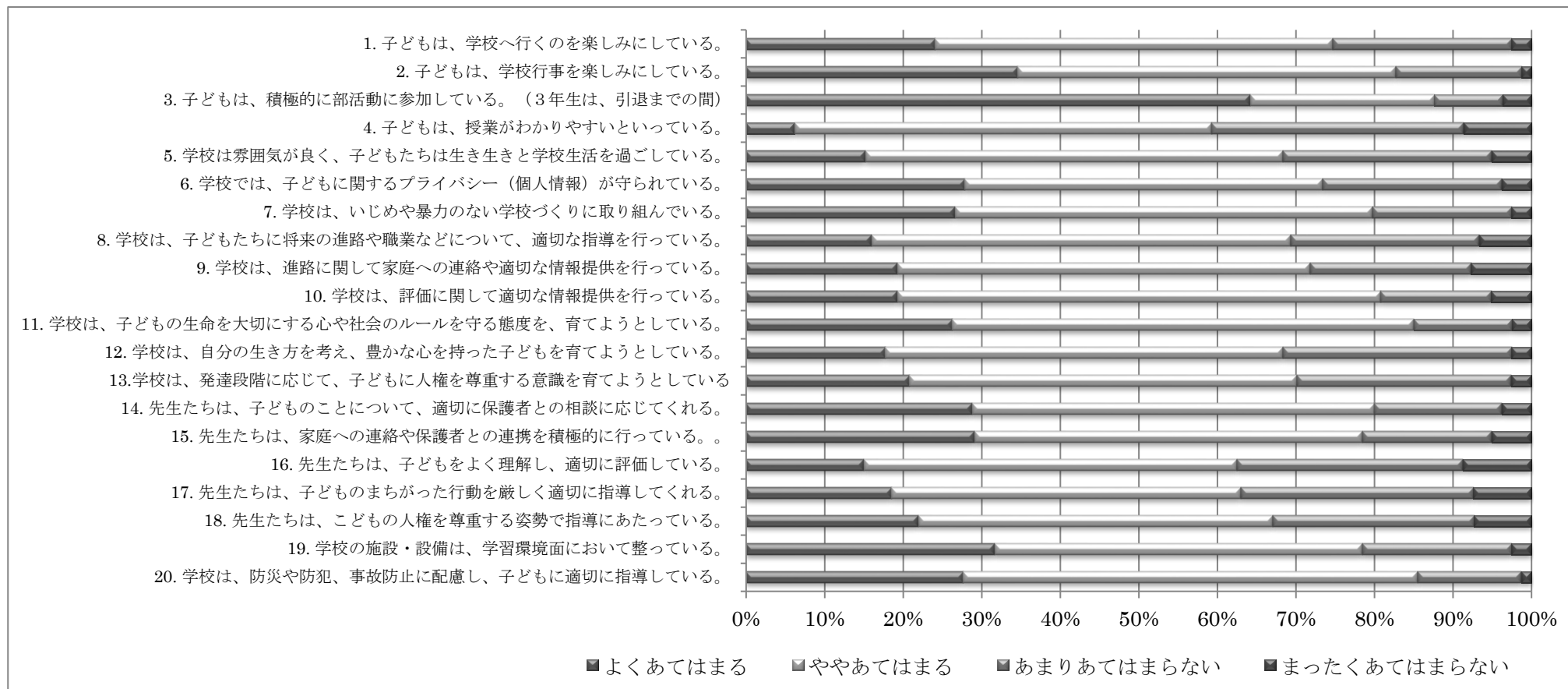
●教職員が否定的にとらえている（「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の合計25%以上）の項目を見ていくと、

- ・思考力を重視した学習面で弱いと評価している教員も少しいる。アクティブ・ラーニングも含め、生徒の思考力を高める指導方法についても継続的に研究し共通理解をもって指導していく必要がある。
- ・服務規律についての自覚があまり高くなく、法的遵守の意識が低いとしている教員も少なからずいる。管理職から適宜注意はしているものの、経験の浅い教員が増えていく中でサービスのあり方についての確認の徹底を図らなければならない。
- ・事故災害時の役割分担が明確でないとしている。分担はしているものの、意識が高くないことが反映されていると思われる。避難訓練を活用し、分担の徹底を図りたい。

◆意見や考え方、指導法の相違による否定的な評価⇒教職員間の連携や人間関係に影響

- ・昨年度と異なり、ほぼ全項目にわたって「まったくあてはまらない」としている教員が存在している。今後、本校の学校体制に影響が出てくると予想される。共通理解できるようあらゆる機会を活かし、相互理解を深めたい。

【外部アンケート等】【教育自己診断・保護者の結果より】



○生徒が部活動に積極的に参加していると評価→教師の負担（長時間労働、休日指導）も今後、考慮すべきだが、保護者は部活動の意義等について一定の理解を示してくれている。しかしながら、部活動の指導において顧問の一方的な発言により保護者に不信感を与えてしまっている場合もあった。

●昨年度に引き続き、授業が分かりにくいと回答している保護者が40%近くに上っている。引き続き、授業改善に取り組み、「生徒にとってわかりやすい授業」のあり方について、研修の更なる充実化を図り、教員全体の授業力向上に取り組む。

●生徒指導における生徒理解について保護者から不安の声があると考えられる（16、17、18の項目）教員の指導の仕方によらつきがあって、生徒や保護者を不安にすることがあってはならない。来年度当初に徹底した指導方針の確認が必要と感じる。

5. 学校園関係者評価

◇PTA 及び地域の方々等からの総合的な評価・

- ・学校の行き帰りでも地域の人に大きな声であいさつをしてくれる生徒が多い。
- ・クリーンキャンペーンをはじめ、棚田の清掃など美化運動に取り組んでいる。PTA 主催の校内整備活動においても、生徒の一生懸命取り組む姿に感心されている。
- ・SC、SSW 及び児童相談員等関係諸機関と緊密な連携を取り、早急な指導および家庭のサポートに対して保護者からも良き評価を頂いている。
- ・学校で出入りする関係業者や高等学校の渉外担当の方から、非常に落ち着いた学校だと感嘆されることがある。
- ・棚田行事でボランティア活動にまじめにきちんと取り組む姿勢は村役場の方々にはもちろん、行事に来られた人からも評価していただいている。特に吹奏楽部の村行事や小学校への行事協力は高い評価を頂いている。

6. 第三者評価

- ◆特に、「第三者評価委員会」という形での評価は頂いていない。
来年度から実施していきたい。